新建材
レポート

集成材の規格サイズを応用したWOOD．ALC

床材利用に向けた試験を開始
WOOD．ALC初の共同住宅

藤田建設工業㈱

ＣＬＴの簡易な設計法に関する開発が進む中、集成材の規格サイズを応用したＷＯＯＤ．ＡＬＣの利用も進んでいる。今年の２月時点で東北から九州にわたってすでに 11 棟が建てられており、今年の３月には初めて３階建の共同住宅に採用された物件の構造見学会が福島県棚倉町で開催された。

設計・施工は福島県の白川、福島、郡山に拠点を置く藤田建設工業㈱。自然素材を豊富に用いた「ｅ・ｈｏｍｅ］など年間約 50 棟の木造住宅を供給している。構造部材に占める県産材の利用量は県内トップの実績を持つ。

構造は鉄骨造で外壁にＷＯＯＤ．ＡＬＣを 50 立米用いている。材料は地元の杉材で、加工は協和木材。

ＷＯＯＤ．ＡＬＣは幅 120㎜の木材を一方向に積層した集成材で、強度があり、工期を短縮できるのが特長。45㎜× 120㎜を 10 層で厚みが 45㎝、長さは３ｍと４ｍである。またラミナを 45㎜ではなく 30㎜にして積層することができる。

耐火性能については、昨年９月に国から準耐火構造の認定を受けた。準耐火性を備えたＷＯＯＤ．ＡＬＣは、平成 22 年に「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が施行されたことから、注目を集めている。一方、構造用面材として普及しているＪ

DATA

【所在地】　福島県東白川郡棚倉町大字棚倉丸内
【構造規模】　鉄骨造３階建
　　準耐火建築イー１
【延床面積】　853.47㎡
【建設】　藤田建設工業㈱
【製材】　協和木材㈱
【工法】　（一社）日本 WOOD ALC 協会